© 山岡荘八・講談社／東映アニメーション
発売元：BF 株式会社ベストフィールド

BFTD-0106

少年 徳川家康

解説書

少年 徳川家康

1975年は二つの記念すべきテレビアニメーションが誕生した年である。ひとつは『まんが日本昔ばなし』、もうひとつは「慌てないあわてない」、「一休みひとやすみ」のフレーズでおなじみ『一休さん』である。どちらも長年にわたり児童の情操教育に貢献したタイトルとして、フジテレビ系日曜日夜7時半からの30分枠「名作アニメ（世界名作）劇場」と並び賞されている。

その『一休さん』誕生のきっかけとなった作品が本作『少年徳川家康』である。この国に暮らす者であれば誰もが名前を知っている歴史上の人物、「江戸時代」の生みの親・徳川家康の少年時代を描いた作品で、武将の長男として生まれた主人公が、まだ幼少のみぎりながら人質として他家に出向させられる……という設定というより人物的背景など『一休さん』との共通点も多いが、決定的に違うのは、一休さんのベクトルが「僧侶」という一種のフリーマン（時代の傍観者）に向かっていたことに対し、竹千代こと将来の家康が「武将」というバトルマンであり政治家（時代の牽引者）たる運命を背負っていた点だろう。

どこか血生臭い竹千代こと家康は"母子でたしなむテレビアニメーション"としては少々異端の存在ではあった。また現在と違い、プロ野球の実況中継放送が高視聴率を獲得していた時代に、本作は4度も放送休止を余儀なくされ、結果的に2クール=26話に満たぬ全20話での幕引きとなった。だが、放送局との契約自体は2クール以上。そこで、その埋め合わせとして急きょ用意された作品が『一休さん』だったのだ。言わば『少年徳川家康』が有するある種の殺伐さ、政治的な小難しさを換骨奪胎した作品こそが『一休さん』で、放送開始と同時に視聴率はうなぎ上り。放送時間帯も毎週月曜日の夜7時半に変更され、国民的アニメーションの仲間入りを果たした。そのため、どこか『一休さん』の序章（プロローグ）的な扱いを受けがちな本作だが、その制作体勢は豪華の一語に尽きる。

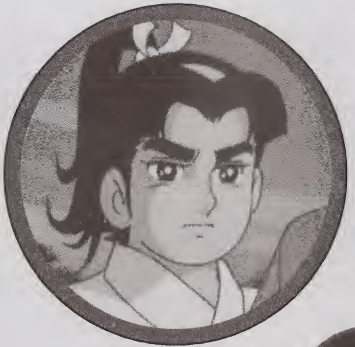
まず原作は歴史小説・文藝の大家・山岡荘八。家康の生涯を、全26巻（講談社・山岡荘八歴史文庫）にも及ぶ筆致で後世に伝えた『徳川家康』で知られる作家だが、同氏が年少者向けに執筆した本作の原作『少年徳川家康』は、タイトルどおり家康の少年期、彼が竹千代の幼名で呼ばれていた時代から「桶狭間の戦い」直後までを描いている。その原作を脚色したのが、往年の日活映画などでヒット作を持つ大川久男で、全20話をひとりで書き上げた。演出は勝間田具治、今沢哲男、山吉康夫ら主に1970年代の東映動画作品を支えた面々が新趣向を交えつつ手堅くまとめていた。音楽は『巨人の星』（'68年）や『機動戦士ガンダム』（'79年）など幅広いジャンルの作品で名人芸を魅せた渡辺岳夫が、ここでもその類稀なる才能の一端を披露している。

連載は、講談社の看板作家のひとりである山岡荘八作品だけに、同社の主力児童向けメディア媒体だった「月刊TV（テレビ）マガジン」などで展開され、同誌には放送期間中、重厚な絵物語が連載されていた。

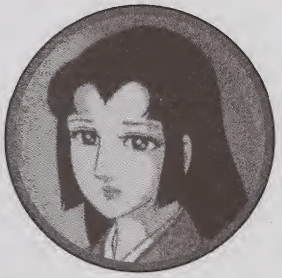
そして何よりも特筆すべきは『聖闘士星矢』シリーズや『キューティーハニー』（'73年）などの作品で知られ、美少年と美少女を描かせれば右に出る者のない荒木伸吾がキャラクターデザインを手懸けた点。荒木氏は残念ながら2011年12月1日、急性循環不全のため早逝されたが、このDVD-BOXは同氏への鎮魂歌（レクイエム）も兼ねつつ、荒木ファン、歴史ファンに是非！手にとって観てほしいと思う次第である。

（文・岩佐 陽一、大久保一光）

主な登場人物



竹千代
（小宮山 清）



於大
（増山江威子）

松平広忠
（井上真樹夫）

華陽院
（花形恵子）

水野信元
（柴田秀勝）

織田信長
（石丸博也/青野 武）

今川義元
（山田俊司/北川国彦）

太原雪斎
（加藤修）

鶴姫
（吉田理保子）

<スタッフ>
原作：山岡荘八
演出：勝間田具治、今沢哲男、山吉康夫
脚本：大川久男
チーフディレクター：田宮 武、矢吹公郎
キャラクターデザイン：荒木伸吾
美術設定：影山 勇
音楽：渡辺岳夫
制作：東映アニメーション

1975年（昭和50年）4月9日～9月17日
NET（現：テレビ朝日）系　全20話

Disc 1

第1話 誕生

脚本／大川久男　演出／田宮 武
作画監督／しらどたけし　美術／影山 勇

あらすじ 天文十年・冬……三河の水野忠政の息女・於大姫が松平広忠の元へ嫁ぐこととなり、物語をかもしていた。今川方の松平家となれば、寝返ったと見て織田軍勢が攻めてくるかもしれないのだ。しかし、忠政には深い考えがあっての結論である。忠政は於大に、自らの想いと南蛮渡来の棉の種を託し、松平家へと送り出したのだった。

解説 本作のオープニングナレーションを担当したのは、2013年6月13日に逝去した往年の名声優・内海賢二。持ちキャラクターは枚挙に暇がないが、『魔法使いサリー』(1966年)のサリーのパパ、『Dr.スランプ アラレちゃん』('81年)の則巻千兵衛、『世紀末救世主伝説 北斗の拳』('84年)のラオウの声などが有名だろう。

第2話 かげり

脚本／大川久男　演出／生頼昭憲
作画監督／石黒 育　美術／秦 秀信

あらすじ 竹千代が生まれて6日目、めでたさに湧く岡崎城。皆が竹千代の成長を待ち望んだ。於大は城の者たちの忠臣ぶりに目頭を熱くする。そんなある日、竹千代は蝉を捕まえようとして縁側から転げ落ちるが、泣きもせず目標の蝉を手にしっかりとつかみ取り笑っていたという。話を聞いた広忠は「竹千代に素質あり、天晴!」と笑うのだった。

解説 本話演出の生頼昭憲は、東映動画(現・東映アニメーション)生え抜きのアニメーターで、作画・絵コンテ・演出をこなす大ベテラン。代表作は『ゲゲゲの鬼太郎』('68年)、『ゲッターロボ』('74年)、『宇宙海賊キャプテンハーロック』('78年)など。現在はフリー。

第3話 別れ

脚本／大川久男　演出／落合正宗
作画監督／伊賀章二　美術／秦 秀信

あらすじ 今川義元からの圧力に屈し、広忠は於大との別れを決意する。たとえ無理難題と分かっていても聞かなければ一族の滅亡につながるのだ。別れを前に於大は、これまでの楽しい日々を思い出していた。一方、離縁の知らせを聞いた水野信元は、広忠への怒りをあらわにし……。

解説 竹千代の声を演じた小宮山清は、『サザエさん』('69年～)の三河屋の三平の声で知られるベテラン声優で、劇団こまどり出身。そのため芸歴は長く、テレビ黎明期のドラマ『事件記者』('63年)や『花の生涯』('63年)などにも出演している。竹千代を演じたときは38歳だった。

第4話 春のあらし

脚本／大川久男　演出／勝間田具治
作画監督／冨永貞義　美術／秦 秀信

あらすじ 於大と別れ、月日は流れたが、広忠は於大との日々をいまだ忘れることができず、酒を呑んでばかりの毎日だった。そんな主の姿を歯がゆく思う家臣たちだったが、日々成長していく竹千代の姿に希望を見出していく。一方、於大は期せずして波太郎と再会。彼から織田吉法師に引き合わされる。於大は吉法師の並々ならぬ目の輝きに気付く。

解説 脚本でのタイトルは第2話「暗雲」、第3話「別離」、第4話「春雷」と、当初は漢字二文字でまとめる趣向だったことが窺える。いささか児童視聴者には難解と判断されての変更だろう。

第5話 旅立ち

脚本／大川久男　演出／生頼昭憲
作画監督／山口泰弘　美術／影山 勇

あらすじ 天文十六年・秋。阿古居城……。於大が久松弥九郎俊勝に再縁し、すでに3年の月日が流れていた。於大が竹千代のことを忘れた日など一日たりともない。そんなとき、俊勝が岡崎と戦(いくさ)になるやも……とふと口にした。3年前、広忠が家臣の反対を押し切って安祥城を攻めたことから、織田の怒りを買ったようだ。広忠もその動きを察知しており……。

解説 本作は『徳川家康』を下敷きにした書き下ろし原作だが、大元の『徳川家康』は1950年3月から'67年4月まで北海道新聞、東京新聞、中日新聞、西日本新聞に連載された大長編。当時は"狸親父"と揶揄されていた家康を主人公にした小説は珍しかった。

第6話 さすらい

脚本／大川久男　演出／今沢哲男
作画監督／我妻 宏　美術／秦 秀信

あらすじ 竹千代ら一行が駿河へと向かった。今川家の協力を得るべく、人質として送り出されたのだ。氷雨の中、竹千代の波乱と苦難に満ちた人生が始まろうとしていた。しばらくの後、竹千代たちは手はずどおり助勢の一団と合流。一同はホッとひと安心するが、そこには恐ろしい陰謀が隠されていた。果たして竹千代の運命は……?

解説 その『徳川家康』は全26巻。家康逝去まで原稿用紙17,400枚を使って描かれ、"世界最長の小説"としてギネスブックにも記録されている。本話には次作『一休さん』('75年)でキャラクターデザインを手懸けることになる我妻宏が作画監督として初参加。

第7話 母のこころ

脚本／大川久男　演出／白土 武
作画監督／しらどたけし　美術／影山 勇

あらすじ 竹千代に助勢するはずの戸田宣光らはあろうことか裏切り、竹千代を那古野城の織田信秀の元へ連行した。彼らを手みやげに、織田に取り入って織田勢に加えてもらおうという魂胆だった。しかし信秀は裏切った戸田をよしとせずに追い返し、竹千代を優しく迎え入れた。信秀もまた、竹千代を利用して松平党を味方に付けようと考えたのだ。

解説 『徳川家康』自体は'64年にNET(現・テレビ朝日)が北大路欣也主演で、'83年にNHKが滝田栄主演で2回ドラマ化もされている。本話では第1話以来のしらどたけしが作画監督を務め、白土武名義で演出も兼任している。

第8話 みなし子

脚本／大川久男　演出／山吉康夫
作画監督／石黒 育　美術／伊藤雅人

あらすじ 尾張へ連れられて来た竹千代。成長した吉法師=信長は、竹千代を実の弟のように可愛がり、竹千代にとってそれは代えがたい救いになっていた。1年半が経ったある日、竹千代は父・広忠が逝去したことを知る。気丈に振る舞う竹千代だったが、内心では独りぼっちになった淋しさを噛み締めていたのだった。

解説 縁の下の力持ちとなって影から竹千代を助け、見せ場も多い竹之内波太郎。こちらは山岡荘八の生み出したオリジナルキャラクターである。モデルは納屋助左衛門こと呂宋助左衛門だろうか?

第9話 竹千代帰る

脚本／大川久男　演出／落合正宗
作画監督／伊賀章二　美術／秦 秀信

あらすじ 松平一党は織田信広の生け捕りに成功。織田勢に竹千代との交換を申し出た。父である信秀は我が子可愛さにその申し入れを受けることに。一方、竹千代を手元におきたかった信長だが、これも竹千代のためと笑顔で送り出すことにした。信長は言う「そちと俺とは血を分けた兄弟も同じ」と。こうして竹千代の孤独な日々は終わりを告げ、家臣たちの元へと帰って行くのだった。

解説 脚本の大川久男は、アニメだけでなく映画『赤い夕陽の渡り鳥』('60年)やTV時代劇『伝七捕物帳』('73年)など、ジャンルを問わず幅広く手懸けるベテラン脚本家。特に人間の心理描写に定評のある作家である。

第10話 いつか春が

脚本／大川久男　演出／勝間田具治
作画監督／冨永貞義　美術／秦 秀信

あらすじ 岡崎城へ向かう竹千代と家臣一行。だが、そのひとり・大久保新八郎の暴言に腹を立てた織田勢は、竹千代の護衛をすると言いながらも仕返しの機会を窺っていた。やがて衝突する新八郎と織田の家臣たち。だが、そこに割って入る男がいた。於大の方に代わり、ずっと竹千代を見守っていた波太郎だった。波太郎の登場によって場はうまく収まる。

解説 キャラクター設計、作画監修の荒木伸吾は『ベルサイユのばら』('79年)など美麗な作画で多くのファンを魅了したスターアニメーター。そのため本作は、荒木ファンから「幻の荒木アニメ」として長い間、ソフト化が待たれていた。

Disc 2

第11話 めぐりあい

脚本／大川久男　演出／今沢哲男
作画監督／我妻 宏　美術／影山 勇

あらすじ 2年ぶりに故郷・岡崎に帰還した竹千代だったが、今度は人質として今川家に向かうことになった。今川義元は信長と竹千代の関係を聞き、信長に下心があると詮索。小ざかしいと笑いながら、鶴姫に竹千代の妻にならぬかと冗談めかしに言う。鶴姫は「宿なしなどまっぴらだ」と言いつつも竹千代に興味を惹かれるのだが……。

解説 キャラクター設計と作画監修は現在のキャラクターデザインと総作画監督に当たり、これより昔はオープニングにもエンディングにもクレジットされていなかった。テレビアニメーションの体勢が改善され、現在に繋がるベースが固まりつつある時代でもあった。

第12話 麦は踏まれて

脚本／大川久男　演出／生頼昭憲
作画監督／山口泰弘　美術／千葉康之

あらすじ 竹千代が今川家の元に差し出されてから3年が経過した。厳しく辛い日々……竹千代は人々から冷たく扱われ、小馬鹿にされて怒ることもしばしばだった。すっかり荒れてしまった竹千代。そんなとき、岡崎からの遣いが竹千代を訪ねて来た。竹千代は母・於大の方、そして家臣からの心遣いを受け取り、本来の優しさを取り戻すのだった。

解説 作画監督のしらどたけしと演出の白土武は同一人物。本作では第1～10話のレイアウトも担当。1970年代の東映アニメーション作品を支えたクリエーターのひとりである。他に『宇宙戦艦ヤマト』シリーズなどでも活躍。

第13話 孤児ふたり

脚本／大川久男　演出／白土 武
作画監督／しらどたけし　美術／桑 秀信

あらすじ 織田信秀が病にて急死した。その報せは俊勝や於大の方にも届き、驚きを隠せない。信長は父の位牌に香を投げつけてその場を去り、周囲を驚かせた。信長の奇行に責任を感じた家臣、平手政秀は切腹。信長はさらに哀しみに暮れて馬を走らせる。荒れる信長だったが、於大の方に慰められて自分を取り戻し、竹千代に伝言を頼むのだった。

解説 織田信長の青年期の声を演じたのは石丸博也。ジャッキー・チェンの吹替えといえばお分かり頂けるはず。その名調子はあまりにも有名で、他には『マジンガーZ』('72年)の主人公・兜甲児、『SF西遊記 スタージンガー』('78年)の主人公、ジャン・クーゴの声などが有名。

第14話 大将への道

脚本／大川久男　演出／山吉康夫
作画監督／石黒 育　美術／伊藤雅人

あらすじ さらに時は流れ、竹千代は大将を目指して剣の稽古に集中していた。一方、同じく大将の道をまい進する織田信長は凛々しい軍曹姿で敵に挑む。武道の師・奥山伝心と修行の最中、竹千代らの前に小男が現れた。話を聞くと仕官の口も、みな仕えるに足りぬ相手で逃げ出して来たという。名は藤吉郎。後の豊臣秀吉その人であった。

解説 主人公、竹千代の青年期を演じたのは野田圭一。後番組『一休さん』('75年)の蜷川新右衛門や『グレート・マジンガー』('74年)の主人公・剣鉄也の声などで知られる。近年は報道・バラエティ番組のナレーターとして活躍中。

第15話 母のおもかげ

脚本／大川久男　演出／矢吹公郎
作画監督／富永貞義　美術／影山 勇

あらすじ 弘治元年三月、駿府城にて竹千代の元服の式が執り行われることになった。これも岡崎の家臣たちによる苦心と嘆願による成果であった。こうして式を終え、竹千代は名も松平元信となった。喜びの涙を隠せない祖母・華陽院に、元信は母親のことを尋ね聞いた。そして元信は、重大な秘密、つまり母親の愛によって自らの命が救われていた事実を知る。

解説 竹千代の母・於大の方の声を演じるのは増山江威子。後番組『一休さん』でも一休さん(千菊丸)の実の母親・伊予の局の声を演じた。初代キューティー(如月)ハニー(『キューティーハニー』['73年])の声やテレビアニメ『ルパン三世』シリーズの峰不二子をはじめセクシーな美女役が多かった。

第16話 ふるさとにて

脚本／大川久男　演出／今沢哲男
作画監督／我妻 宏　美術／影山 勇

あらすじ 元信の元に僧が駆けつけた。元信の恩師である雪斉禅師が病に伏し、元信を呼ぶよう申しつけたという。話を聞いた元信は矢も盾もたまらず馬を走らせて禅師の元へと急いだ。禅師は元信にできる限りの助言をし、しばらくして他界した。そして禅師の言っていたとおり、元信は義元の取り決めでその娘・鶴姫と婚礼を挙げることになった。

解説 音楽の渡辺岳夫はテレビアニメーションにも時代劇にも強い作曲家として知られる。代表作はテレビアニメは『機動戦士ガンダム』('79年)、テレビ時代劇は『徳川おんな絵巻』('71年)などがあり、この『少年徳川家康』は渡辺にとってうってつけの作品だったといえる。

第17話 決意の夜

脚本／大川久男　演出／生頼昭憲
作画監督／山口泰弘　美術／桑 秀信

あらすじ 年号も変わり新しい年を迎えた永禄二年。元信は、信長を連想させるという理由から、義元に命じられ松平元康と改名させられた。織田信長を討つべく動き始めた義元は、信長に初陣の元康をぶつけようとする。義元の動きを察知した信長は腹心の部下、通称・猿こと、藤吉郎に相談した。そして信長は……!

解説 石丸博也と野田圭一の夢の競演に当時、胸躍らせた『マジンガー』ファンの子供たちは多かった。なお、本作の放送は半年、2クール全26回を予定していたが、プロ野球中継などで4回放送休止しており全20話で終了することに。

第18話 初陣

脚本／大川久男　演出／勝間田具治
作画監督／石黒 育　美術／桑 秀信

あらすじ 元康は初陣の朝を迎えた。緋おどしの甲冑を身にまとい、軍扇を携えた元康の雄姿に、家臣たちの士気も否応にも上がる。法螺貝の音が響き渡り、元康の軍勢は大高城を目指して出発した。元康出発の報せを聞いた於大は落胆するが、俊勝に励まされ息子の無事を祈るのだった。一方、元康の作戦は家臣らも驚くべき内容だった。それは……?

解説 大元の『徳川家康』ではその死まで七十余年にわたる物語が描かれているが、本作では桶狭間の戦いまでで終了となった。もし放送が続いていたら"少年"がタイトルから外れ、そこまで描かれたのかもしれないが、逆にラストまで描くには全何話必要だったのか気になるところではある。

第19話 決戦!桶狭間

脚本／大川久男　演出／白土 武
作画監督／しらどたけし　美術／影山 勇

あらすじ 元康は大高城救援で成功を収め、初陣を見事に飾った。しかし、その後も元康は駿府に身を置くことに。義元は元康を京に攻め入る際の弾よけに使おうと考えていたのだ。そして永禄三年五月二十日……義元はついに大軍を率いて出陣!この動きを察知した信長は昼寝でもして考えると言い出し、配下の者を呆れさせるのだが……。

解説 史上名高い「桶狭間の戦い」をアニメ化した本作。東映動画(現・東映アニメーション)の熟練スタッフの手で子供にも分かりやすく映像化されている。ひょっとして「桶狭間の戦い」のアニメ化はこれが初?

第20話 遠い道

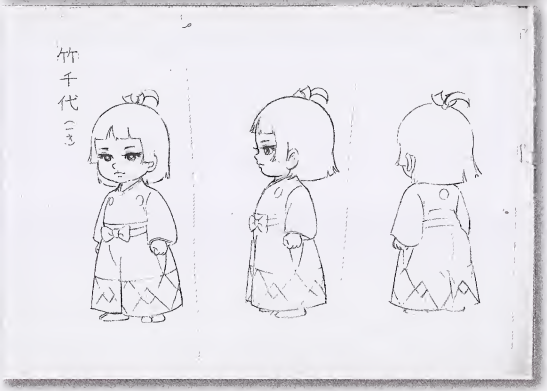
脚本／大川久男　演出／今沢哲男
作画監督／我妻 宏　美術／桑 秀信

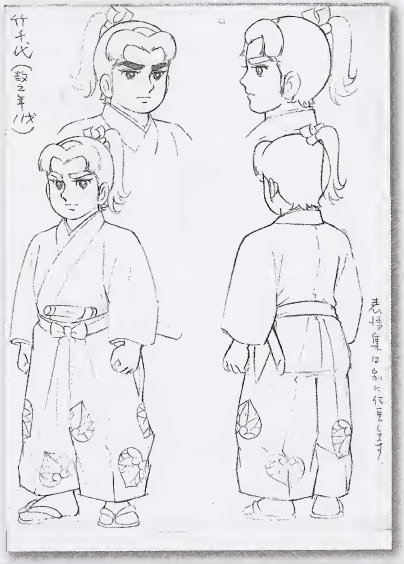
あらすじ 今川勢の骸が横たわる桶狭間。信長の見事な奇襲作戦により義元は見事討ち取られた。これを境いに日本は大きく揺れ動いていく。一方、元康の元には、波太郎が面会に現れた。配下の者たちは波太郎の来訪を不審に思うが、元康は面会を受け入れた。波太郎は於大の言葉を伝える……一旦退き、やがて来る信長の時代に備えよ……この言葉に元康は……?

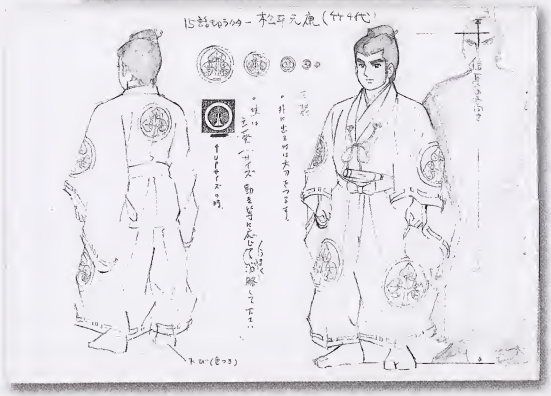
解説 最終回では元康が苦難の末、岡崎城へ帰還するところまでを描き、その後の徳川家康としての活躍は、ラストにテロップで語られて幕引きとなった。スタッフの良心と誠意の感じられるエンディングである。

●竹千代(声／小宮山 清)
松平元康(声／野田圭一)

のちの徳川家康で、本作の主人公。
戦国の世に生まれ、運命に翻弄されながらも成長していく、若き家康の姿を描く。
そのため、生誕時から成年に至るまでの設定画が起こされているのが興味深い。
アニメーションでここまで徳川家康(それも少・青年時)がフィーチャーされた
作品は他に類を見ないだろう。

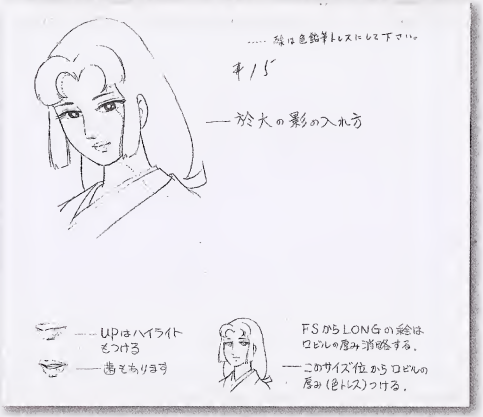






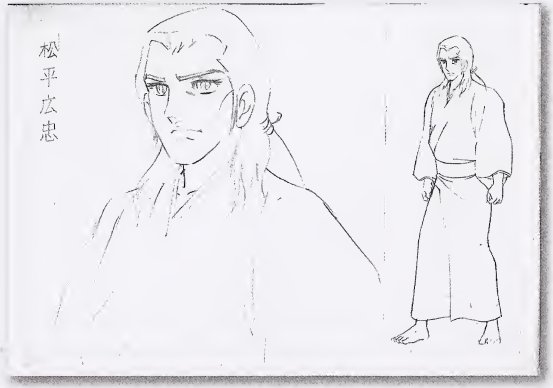
●於大(声／増山江威子)

竹千代の母親。
14歳で岡崎城主・松平広忠の正室となり、翌年、竹千代を生む。
“於大の方”とも呼ばれる。



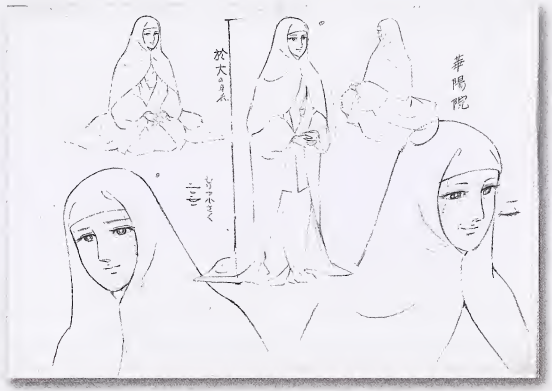
●松平広忠(声／井上真樹夫)

松平家八代目当主にして、於大の夫、竹千代の実の父親である。

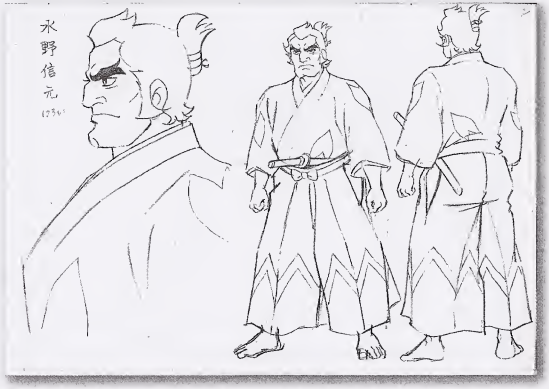


●華陽院(声／花形恵子)

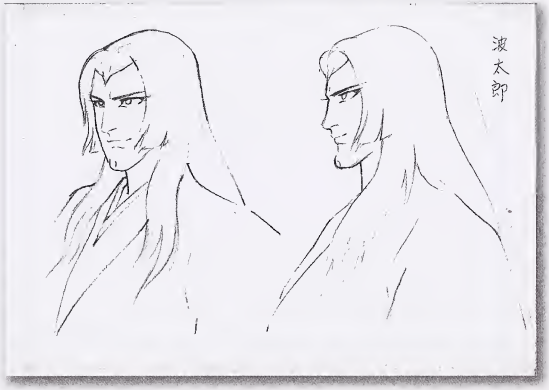
竹千代の祖母。刈谷城主・水野忠政に嫁ぎ、於大ら三男一女を生む。
“於富の方”などとも呼ばれる。



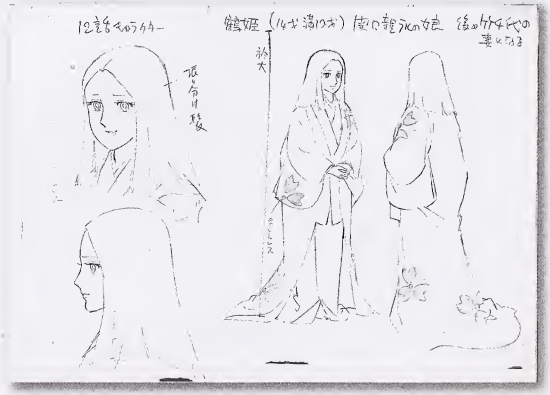
●水野信元(声／柴田秀勝)
水野忠政の次男で於大の異母兄。竹千代の叔父にあたる。



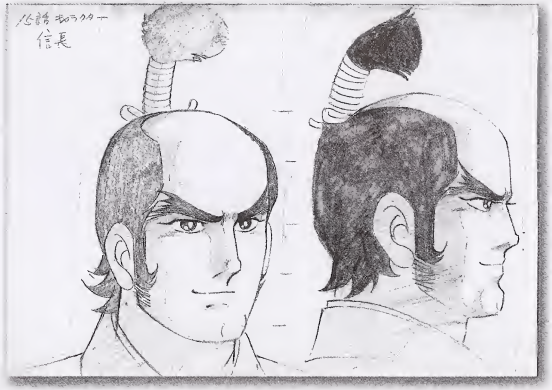
●竹之内波太郎(声／山田俊司[現・キートン山田])
"熊の若宮"とも呼ばれ、竹千代に協力する。
のちに堺の豪商・納屋蕉庵となって再び現れる。



●鶴姫(声／吉田理保子)
今川家の人質となっていた竹千代=松平元康が、今川家の意向により政略結婚を余儀なくされた相手。6歳年上の少女だ。

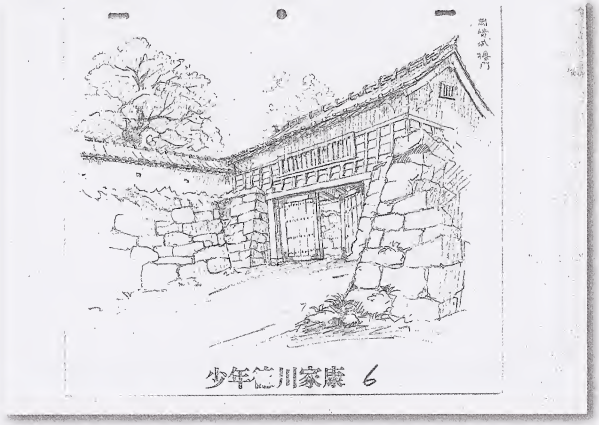


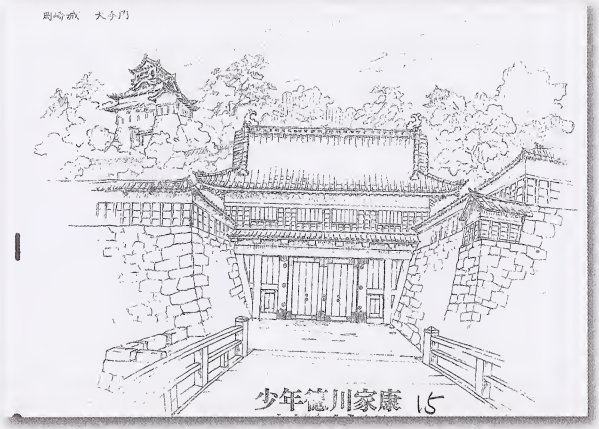
●織田信長(声／石丸博也、青野 武)
尾張の大名。桶狭間の合戦で勝利し、戦国時代の覇者となる。



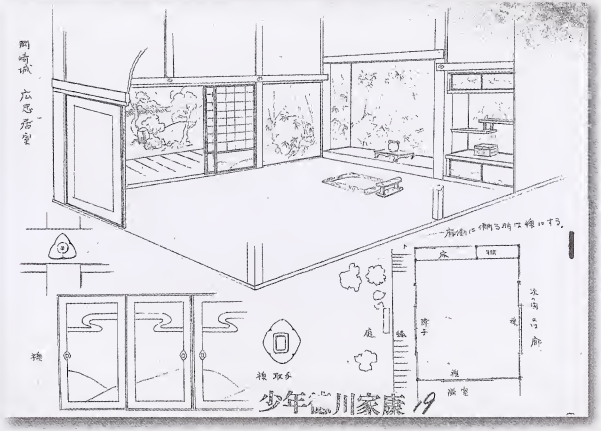
●岡崎城

徳川家康の生地（家）であり、戦国時代から安土桃山時代は徳川家の持ち城。
別名“龍城”。愛知県岡崎市にあった。



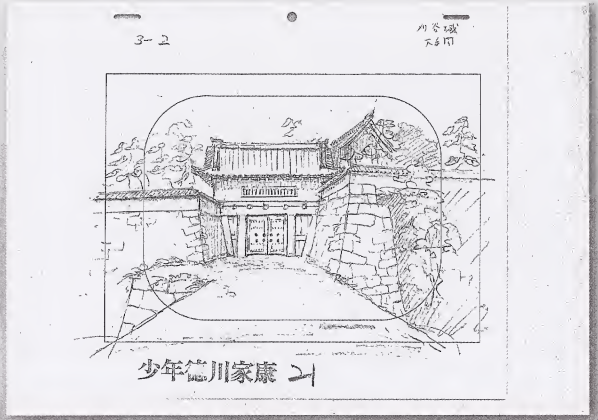


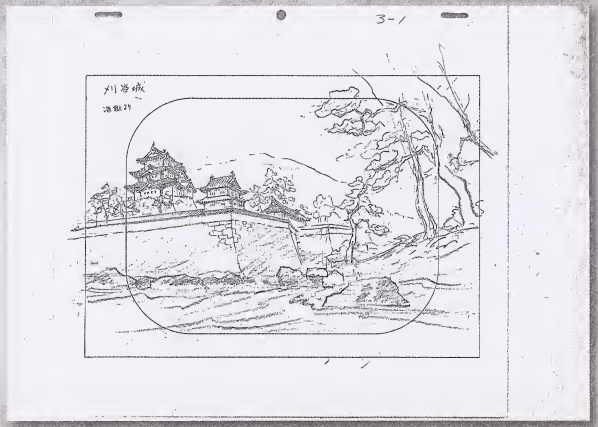
美術設定解説



●刈谷城

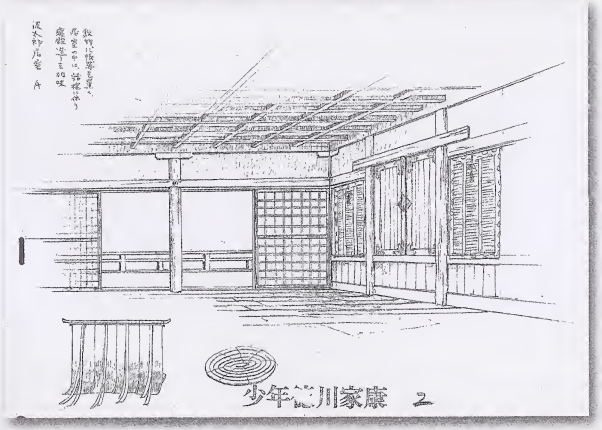
水野忠政が築城し、以後本拠地とした城。別名“亀城”と呼ばれる。
現在の愛知県刈谷市にあった。





●波太郎館

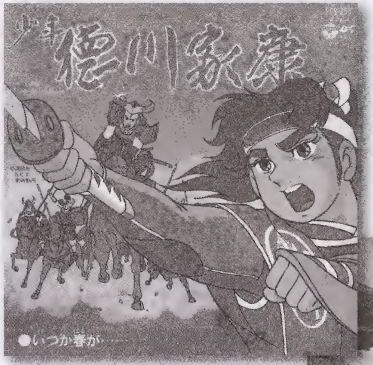
竹之内波太郎の館。
「古びた屋敷」との設定だが、なかなか味わい深い。

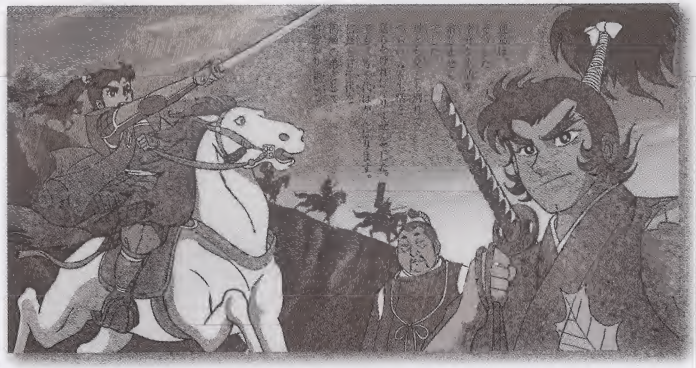


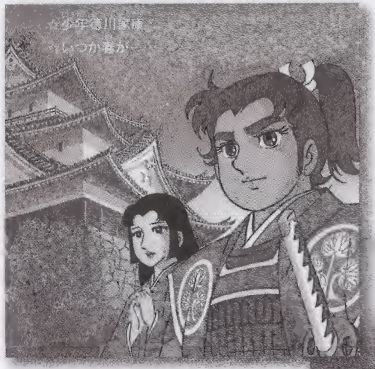
少年 徳川家康

ITEM COLLECTION

放送当時、日本コロムビアより発売された、主題歌・副主題歌を収録したシングルレコード。
残念ながらLPレコードは発売されなかった。
東映動画（現・東映アニメーション）作成の版権用イラストが美しい。（提供・腹巻猫）







想い出のアニメライブラリー 第27集

少年 徳川家康

DVD-BOX
デジタルリマスター版

山岡荘八の「徳川家康」を原作に、家康が三河の国・岡崎城主になるまでの若き日の苦難と成長の姿を壮大なスケールで描いた

歴史大河アニメーション!!

1975年(昭和50年)4月9日～9月17日
NET(現:テレビ朝日)系　全20話

© 山岡荘八・講談社／東映アニメーション
発売元：BF 株式会社ベストフィールド

DVD VIDEO

少年徳川家康

DVD-BOX

デジタルリマスター版

BFTD-0106

想い出のアニメライブラリー 第27集

少年 徳川家康

Disc 1

© 山岡荘八・講談社／東映アニメーション

DVD VIDEO
2 NTSC 日本市場向
DOLBY DIGITAL
JASRAC V-14U5111
レンタル禁止
BFTD-0106-1

BF
株式会社ベストフィールド
Pressed in TAIWAN

想い出のアニメライブラリー 第27集

少年 徳川家康

Disc2

© 山岡荘八・講談社／東映アニメーション

DVD VIDEO
NTSC 日本市場向
DOLBY DIGITAL
JASRAC V-1405111
レンタル禁止
BFTD-0106-2

BF
株式会社ベストフィールド
Pressed in TAIWAN

想い出のアニメライブラリー 第27集

少年 徳川家康

DVD-BOX
デジタルリマスター版

Disc 1

第 1 話 誕生
第 2 話 かげり
第 3 話 別れ
第 4 話 春のあらし
第 5 話 旅立ち
第 6 話 さすらい
第 7 話 母のこころ
第 8 話 みなし子
第 9 話 竹千代帰る
第10話 いつか春が

Disc 2

第11話 めぐりあい
第12話 麦は踏まれて
第13話 孤児ふたり
第14話 大将への道
第15話 母のおもかげ
第16話 ふるさとにて
第17話 決意の夜
第18話 初陣
第19話 決戦！桶狭間
第20話 遠い道

© 山岡荘八・講談社／東映アニメーション　発売元：BF 株式会社ベストフィールド

PRINTED IN JAPAN.

DVD
VIDEO

少年徳川家康

DVD-BOX
デジタルリマスター版

BF
夢をかたちに！

BFTD-0106
（2枚組）